

重点1 毎日の授業の充実

6 B 体験活動（職場体験学習実施状況）

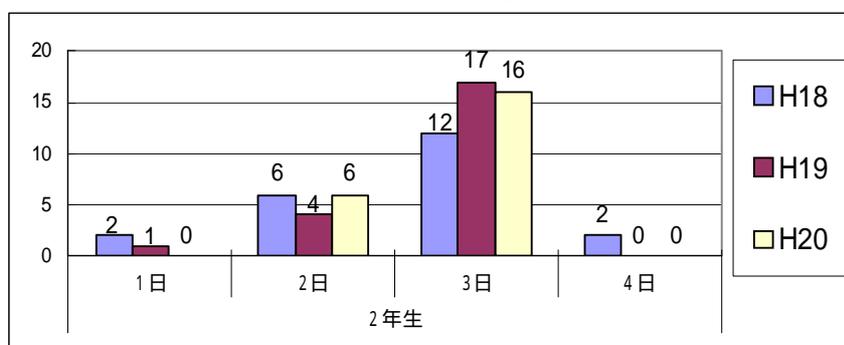
ねらい

自らの意思と責任で、進路を選択し、自分らしい生き方を実現していこうとする力を育成するため、各学校ではさまざまな進路指導を行っています。その中でも、中学校では、総合的な学習の時間を中心に、地域にある事業所等に協力していただき、職場体験学習を行っています。

生徒にとっては、学校だけでは学ぶことができない、働くことの意義や役割、喜びや苦勞などを実感できると同時に、事業所や地域の人々にとっても、地域の子どもたちを知るという意味でもたいへん意義深いものとなっています。

現状と課題

実施校における期間別実施状況（校数）



<平成20年度実施状況>

実施校数 22校
 （H17年以降、市内
 全中学校で実施）
 体験生徒数
 のべ7,879人
 協力事業所
 のべ1,005事業所

実施校の現状から

- 平成13年度からはじまったこの事業は年々拡大し、平成17年から市内全校で実施されるようになりました。本年度も市内全22校で実施され、すべての中学校において2年生での実施が定着しています。
- 体験学習期間については、3日間の実施が16校、2日間の実施が6校となり、一定の実施期間が定着してきました。また、取組内容が充実し、まとめの発表等の工夫もみられます。
- 受入事業所数については、毎年約1,000事業所が協力していただいております。「中学生への関心が高まった」「生徒たちの取組は積極的だった」という回答の割合が高く、受け入れ先事業所の方々が一生涯懸命になって生徒を指導していただいた様子もうかがえます。また、体験した生徒たちも「進路や将来について考える機会となった」と回答する生徒の割合が高く、生徒にとって日常の授業では学び得ない有意義な活動となっていることがうかがえます。
- 2学期の同時期に複数校が実施し、体験事業所先が重なるという課題がありました。

今後の改善方針

本事業はキャリア教育の視点から望ましい勤労観・職業観を育成し、生徒の感性を磨き、豊かな人間性を培っていく貴重な体験です。本事業をキャリア教育の中核として位置づけ、組織的・系統的なキャリア教育の推進を図ります。

本事業の意義を再認識し、事業所の負担を考慮しつつ、さらに本事業を充実させる手立てや工夫を検討していきます。また、協力事業所の拡大にも力を入れていきます。

本事業は地域と学校とをつなぐ役割も果たしており、キャリア教育の推進とともにこの点においてもその重要性を再確認し、地域との連携にも力を入れていきます。